

# 籾水分情報 Vol.14

令和6年9月27日  
農業技術研究センター

高温の影響により、例年より出穂が早まりました。気象庁は今後も高温になると予報しており、登熟は早く進み、収穫期の前進が予想されます。高温時には玄米の成熟よりも帯緑色籾の減少が遅れることがあるため、刈り遅れないよう籾水分を確認し、25%になったら収穫を開始しましょう。また、高温時には籾水分のばらつきが大きくなるため、平均値だけではなく、その分布も刈取適期判定に重要です。そこで当センター玉井試験場内水稻ほ場の籾水分状況を調査し、原則として、毎週火、金曜日に公表しています。

ほ場の観察や籾水分の確認と併せて本情報を活用いただき、適期の刈取りを行い高品質米を生産しましょう。

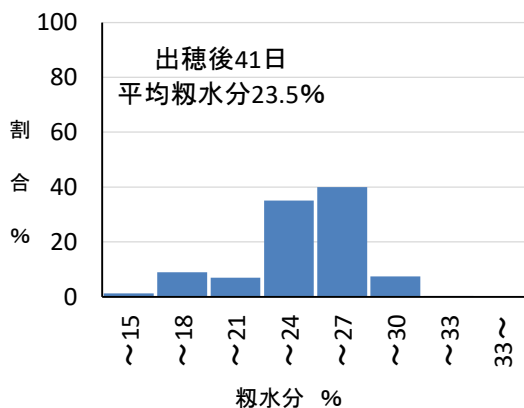
【\*籾水分情報の提供は今回で終了します。】

## 9月26日現在の状況

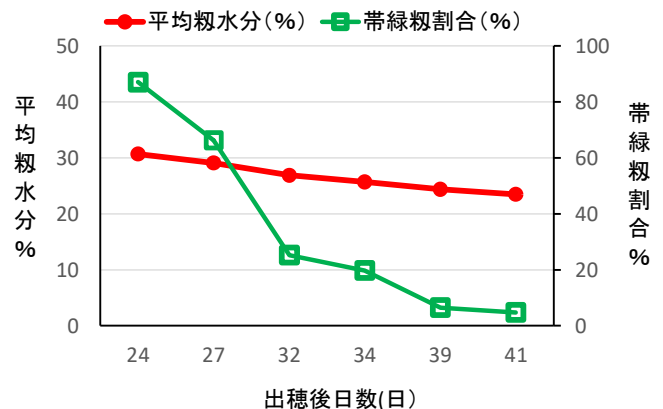
### ◎ 6月25日植「彩のきずな」

(出穂期：8月16日、出穂後41日、出穂～測定前日までの積算気温1109℃)

- 籾水分の平均値は23.5%です。帯緑籾割合は4.8%、出穂～測定前日までの積算気温は1109℃と収穫適期の目安を過ぎています。茶米が見られ、既に刈遅れの状態となっています。速やかに収穫作業を行いましょう。また、収穫後の過乾燥や急激な乾燥は、胴割粒や水浸割粒(精米を水に浸したときに割れる粒)による品質低下の要因となるため注意しましょう。降雨後は、籾や茎葉が乾いてから収穫作業を実施し、倒伏や登熟ムラの大きい箇所は刈り分けを行いましょう。



○籾水分の分布



○平均籾水分、帯緑籾割合の推移

\* (参考) 普通期栽培「彩のきずな」の収穫適期の目安  
登熟積算気温 900~1100℃、帯緑籾割合 30~10%



○6月25日植「彩のきずな」、出穂後41日（9月26日）の玄米（篩目1.8mm）

- \* 単粒水分の測定方法：午前10時30分頃、中庸な1株からサンプリングした約10本分の穂を脱粒し、2.1mm目の篩により不稔粒を除いた粒を単粒水分計により測定（2反復）